

## 第3学年 音楽科学習指導案

甲府市立北中学校

1 題材名 コード進行をもとに旋律をつくり、グループでアンサンブルをしよう。

2 題材の目標

- ・コード進行をもとに自分の思いや意図を旋律で表現することができる。
- ・個人で創作した旋律を組み合わせて、アンサンブルをすることで音楽の広がりを感じ取る。

3 題材について

本題材は、学習指導要領の第2学年及び第3学年目標(2)「多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。」並びに、内容「A表現」(3)ア「言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。」(2)ウ「声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。」を実現するための題材である。

1年生の創作では言葉にリズムをあてはめ、言葉の抑揚を生かした旋律づくりを行った。2年生では、コードについて学習し、カノンコードの構成音から音を選び、二分音符で4小節の旋律を創作したが、リズムを正確にとらえることや音符を書くことにつまずく様子が見られた。そこで2年生の後半より、授業の初めにリズムビンゴや、五線譜を使って書いたり読譜をしたりする時間を設け、苦手意識を取り除くよう取り組んできた。今回は2年生の時に行った活動を発展させ、副次的な旋律の創作を行うことで、より音楽に厚みや広がりが出ることを感じさせていきたい。

器楽では、1年生で箏の学習、2年生でギターでの学習を行った。ギターではコードの奏法も試みた。初めて経験する楽器に興味をもって意欲的に取り組み、仲間とともに合わせる喜びを味わうことができた。

本題材の学習にあたっては「卒業」をテーマとして、生徒の思いや意図をもとに旋律をつくる学習を行い、最終的には卒業式の退場の時に流す曲をつくりたい。まず、個人で4小節の旋律を創作したものをグループで持ち寄り、つなぎ合わせる。それを刺繍音、経過音なども取り入れながら修正してよりよい旋律にする。さらに、副次的な旋律やベース音をつくり重ね合わせることで、音楽のテクスチャを学ぶ機会にもなると考える。仕上がった旋律は、各旋律に合った音色を選択し、キーボードでアンサンブルを行う。音の重なりを感じながら一つの音楽をつくりあげる喜びを味わい、義務教育9年間の集大成となる創作および器楽の活動を行いたいと考え、本題材を設定した。

4 指導内容

- A表現(3)ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。  
(2)ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

5 本題材で位置付ける〔共通事項〕の内容

〔共通事項〕		学 習 内 容
ア	旋律	・コード進行をもとにして旋律をつくる。(創作)
	テクスチャ	・声部のかかわり合いを意識し、音楽をつくったり、演奏したりする。(創作・器楽)
イ	用語や記号	・和音(コード)、順次進行、跳躍進行

6 甲府支部の研究より

(1) 9年間のつながりを意識した活動

- ①五線譜を使って、楽譜に親しもう。
  - ・創作した音楽を記録し、再現できるようにするための楽譜の効力を実感させ、五線譜に書いたり読んだりしながら、楽譜を使って創作する。
- ②音楽の言葉を使ってコミュニケーションをしよう。
  - ・旋律を工夫したり旋律を組み合わせてアンサンブルをつくったりしていく過程で、思いを表すための音楽の決め手を意識させ、グループでそれを用いた話し合いをしながら音楽的なイメージを形づくっていく。

(2) 授業のユニバーサルデザイン化に向けて

～題材構想における「思考をうながすための手立て」～

- ①学習手順が理解できるワークシートを作成する。(焦点化)
- ②拡大楽譜により学習の内容を明確にする。(視覚化)
- ③創作の工夫点やその意図について理解を深めるための意見交流タイムを設定する。(共有化)
- ④創作活動がスムーズになるためのヒントカードを用意する。
- ⑤創作できた生徒がさらに工夫していくためのステップアップカードを用意する。

7 教材名及び教材選択の理由

(1) 教材 自作教材

〈聴取教材〉	「ハナミズキ」	作詞	一青窈	作曲	マシコタツロウ
	「エーデルワイス」	作詞	オスカー・ハマースタイン	作曲	リチャード・ロジャーズ
	「翼をください」	作詞	山路 路夫	作曲	村井 邦彦

(2) 教材選択の理由

今回自作教材として使用するコード進行は、「ハナミズキ」の冒頭部分のコード【C → G → Am → C (C7) → F → C → Dm (Dm7) → G → C】である。この曲は、1年生の頃から合唱の前に声出しとして歌い続けてきたので、生徒も親しみを感じている。そのコード進行を用い、心に残る一曲をつくらせたい。また、音楽の幅を広げるために、「ハナミズキ」のコード進行の一部にセブンスコードを選択できるようにした。

聴取教材として使用する「エーデルワイス」「翼をください」は、構成を考えると共に生徒にとってわかりやすい曲であるので取り入れた。また、「ハナミズキ」は、副次的な旋律を創作する際に、知覚感受しやすいように編曲して聴かせる。

8 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
① コード進行の響きに関心をもち、音楽表現を工夫して、旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 (第1時:創作)	① コード進行の響きを感受しながら、どのような音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(第2時:創作)	① 主旋律を引き立たせるような旋律をつくるための、技能を身に付けている。(第4時:創作)
② 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解し、合わせて演奏する活動に主体的に取り組んでいる。 (第6時:器楽)	② 自分たちの作品をさらによりよいものにするために、旋律を変化させることに思いや意図をもっている。 (第3時:創作)	② 声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするためにキーボードを使って正しく演奏することができる。 (第7時:器楽)
	③ 旋律の重なりを感じながら、根拠をもって副次的な旋律に変化をつけ、よりよい旋律をつくらうとしている。 (第5時:創作)	

9 指導と評価の計画・・・全7時間

時	○学習のねらい及び内容	◇学習の活動及び教師の働きかけ	評価規準 【方法】
1	<p>○「卒業式の退場曲」にふさわしい音楽を考え、最後にはグループによるアンサンブル作品として発表、録音することを確認する。</p> <p>○グループになり、どのような雰囲気曲にするのか意見を出し合う。</p> <p>○ハナミズキのコード進行を提示し、構成音を使って4小節の旋律を個々に創作する。 C→G→Am→C(C7)→F→C→Dm(Dm7)→G</p> <p>・構成音から音を選びワークシートに記入する。</p>	<p>◇イメージと音楽を結び付けられるよう旋律、形式の例を提示する。生徒が考えそうなイメージに沿ったものの例を出す。 (例) ・ゆったりした曲 ・未来に向かっていくような曲 ・中間部が盛り上がるような曲等</p> <p>◇曲の盛り上がりを考え、どの部分をつくるかを、「エーデルワイス」「翼をください」などを参考にしながら決定する。</p> <p>◇構成音から音を選び、二分音符と四分音符を使って旋律づくりをする。</p> <p>◇セブンスコードなども選択してよいこととし、それぞれの終わりの音やスタートの音のつながりを意識させながらワークシートに記入させる。</p>	<p>アー① 【ワークシート】</p>
2	<p>○前回の旋律を見直し楽譜にする。</p> <p>○自分のつくった曲がイメージに沿ったものなのか弾きながら確かめる。</p> <p>○個々の旋律をつなぎ合わせ弾く。</p>	<p>◇音符の向き、長さなど間違えないように書く。</p> <p>◇自分のイメージにあった音楽になっているか確認する。</p> <p>◇つながりの音が自然な感じになっているか確認し、不自然な場合意見を出し合いながら音を変える。</p> <p>◇なめらかに弾けるよう練習する。</p>	<p>イー① 【観察・ワークシート】</p>
3	<p>○コードの構成音だけの旋律と非和声音の入った旋律を聴き、知覚・感受する。</p> <p>○自分のつくった旋律の中に非和声音を取り入れる。</p> <p>○グループになり、自分たちの旋律をよりよいものにする。</p> <p>○個人の旋律を修正する。</p>	<p>◇「ハナミズキ」の一部を聴き、旋律の違いを感じ取る。</p> <p>◇拡大楽譜を見て、非和声音がどのように入っているかを確認する。</p> <p>◇音の入れ方やリズムの変化を考え1・2か所取り入れ、旋律を修正する。</p> <p>◇つなげて弾き、さらによい旋律になるよう話し合い、根拠をもってどこを修正したらよいかアドバイスし合う。</p>	<p>イー② 【観察・ワークシート・発言】</p>
4	<p>○「クラスの旋律」である12小節の旋律を発表する。</p> <p>○主旋律、ベース音、副次的な旋律、コードが入った「ハナミズキ」を聴き、旋律だけでは味わえなかつ</p>	<p>◇旋律だけではなく、ベース音が入ったほうがより音楽の幅が広がることに気付かせる。(ここでは</p>	<p>ウー① 【観察・ワークシート・発言】</p>

	<p>た音楽の響きを感じ取る。</p> <p>○「クラスの旋律」にベース音が入ることにより音楽の雰囲気が変わることを知る。</p> <p>○3種類のベース音の上に「クラスの旋律」を重ね、「クラスの旋律」にあった自分たちがつけたいベース音を選び完成させる。</p> <p>○もう一度「ハナミズキ」を聴き、次に副次的な旋律を取り入れることのよさを感じ取る。</p> <p>○「主旋律+ベース音」に副次的な旋律をつけていくことを確認する。</p> <p>○構成音を用い、残りの8小節をグループごと話し合いながら、二分音符で副次的な旋律をつくる。</p>	<p>ベース音のみ)</p> <p>◇生徒がクラスの旋律を歌う中で教師がベース音を弾き、旋律だけのものとベース音が入ったものとの違いに気付かせる。→「ベース音を入れたい」という気持ちをもたせる。</p> <p>◇なぜそのベース音を選んだのか根拠をもって意見交換をする。</p> <p>◇副次的な旋律が入っていることに気づき、さらに音楽の幅が広がることに気付かせる。</p> <p>◇初めの4小節を教師側が例としてつくり、どのように変化していくかを感じ取らせる。</p> <p>◇弾きながら響きを確認し、よりよいものをつくる。</p>	
5 本時	<p>○比較鑑賞をする。</p> <p>○前回つくった作品「主旋律+ベース音+副次的な旋律(二分音符)」の副次的な旋律を変化させる。(個々に必ず1か所考える。)</p> <p>○個々の旋律を持ち寄り、グループで意見交換をする。</p> <p>○つなげて演奏し、確かめる。</p>	<p>◇教師の作品を例にして、変化の違いを感じ取らせる。</p> <p>◇二分音符でできている副次的な旋律に経過音や刺繍音を入れたり、リズムを変えたりして曲を変化させる。</p> <p>◇一人ずつ自分が変化させた部分の根拠を伝え合い、よりよい副旋律を決める。</p>	<p>イー③ 【観察・ワークシート・発言】</p>
6	<p>○それぞれのパートの音色を選び、曲にあったイメージに仕上げる。</p> <p>○演奏できるように練習する。</p> <p>○ここまでの仕上がりを発表し合う。</p>	<p>◇主旋律・副次的な旋律・ベース音のそれぞれの音色を考えながら選択する。</p> <p>◇他グループの演奏で感じたことを自分たちのグループで生かせるようにする。</p>	<p>アー② 【観察・発言】</p>
7	<p>○発表・録音する。</p> <p>○自己・グループ・全体の反省、評価をし合う。</p>	<p>◇それぞれの作品を聴き合い、よさを伝え合う。</p>	<p>ウー② 【演奏録音】</p>

## 10 本時の授業

### (1) 本時の目標 (全7時間の5時間目)

旋律の重なりを感じながら、根拠をもって副次的な旋律に変化をつけ、よりよい旋律にしよう。

### (2) 展開

	○学習内容 ・学習活動	◇指導上の留意点	評価規準 【方法】
見 通 す  10 分	○比較鑑賞をし，雰囲気の違いを感じ取る。 ・副次的な旋律が二分音符だけのものと，旋律を引き立たせるようにつくったものを聴く。  ・旋律の動きがあるのはどのようなところかに気付く。  ○本時の学習と流れを知る。	◇最初の4小節を教師が例としてつくり，二分音符だけのものと何が違うのかを聴取させ，変化させたいという気持ちをもたせる。 ・拡大楽譜を見て，副次的な旋律がどのように入っているかを確認させる。	
	主旋律をより引き立たせる副旋律をつくろう。		
	・「主旋律＋ベース音＋副次的な旋律（二分音符）」の二分音符の部分をもつて四分音符や八分音符等を使って変化をつける。	◇二分音符でできている副次的な旋律に経過音や刺繍音を入れたり，リズムを変えたりしながら曲を変化させることを説明する。	
深 め る  35 分	○副次的な旋律に変化をつける。 ・前回つくった作品でどこの部分に変化をつけるかを考えさせる。 ・一人が必ず1か所は変化をつける。  ○個々の旋律を持ち寄り，グループで意見交換をする。 ・変化させた旋律を，根拠をもって検討し一つの作品をつくる。  ○「主旋律＋ベース音」に合わせて，演奏できるようにする。	◇「主旋律＋ベース音」を録音しておき，それに音を重ね確認できるようにする。 ・変えたい場所に印をつけ，何度も弾きながら音を選ばせる。 ・机間指導をして活動の様子を確かめ，必要に応じて助言をする。  ◇一人ずつ自分が変化させた部分の根拠を伝え合い，よりよい副旋律を決めていく。 ・きれいにつながったか，つながり部分が不自然ではないかを確認させる。 ・決定したグループの旋律をワークシートに記入させる。  ◇活動の途中で，できたグループの旋律を紹介し活動を促す。	イー③ 【観察・ ワークシート・ 発言】
振 り 返 る 5 分	○本時のまとめをする。 ・旋律づくりをするなかで，気付いたことや感じたことをワークシートに記入する。	◇本時までの活動を評価し次への意欲につなげる。 ・感想を共有する。	

(3) 学習評価の進め方

本時の評価【音楽表現の創意工夫】

イー③：旋律の重なりを感じながら、根拠をもって副次的な旋律に変化をつけ、よりよい旋律をつくろうとしている。

○おおむね満足できる状況

- ・旋律の重なりを感じながら、副次的な旋律に変化をつけることができる。
- ・個人、グループの活動を前向きに取り組み、自分の意見をもって曲をつくること

○十分満足できる状況

- ・旋律の重なりを感じながら、主旋律を引き立たせるような副次的な旋律をつくる
- ことができる。
- ・個人、グループの活動を積極的に取り組み様々な意見を持ち、その思いや意図を表現（楽譜）に生かすことができる。

○特別な支援が必要な状況

- ・旋律の重なり、どこを変化させるかなどを一つ一つ確認しながら進める。
- ・個人、グループの活動を通じ、周りの意見を取り入れながら考えていく。